

蛸まち・潮まち・港町

みたらい通信

町並み保存地区みたらい情報誌



御手洗 重伝建を考える会



■表紙の写真

リレーエッセイの筆者
榎本氏の少年時代、住
吉海岸通り前にて。住
吉神社・千砂子波止に
続くこの通りは子ども
達の毎日の遊び場だった。



少子化現象が続く一方で、双子ち
ゃんの出生率は伸びているとか。
写真上は御手洗のツインズ、川崎
さんちの裕也クンと智大クン。
写真中央ももう一組のツインズ、
関藤瑞生クンと寛生クン。
写真右は御手洗に新しくできた歌
碑の除幕式に集まったことも速。

みなさん
アソビに来て
ください!



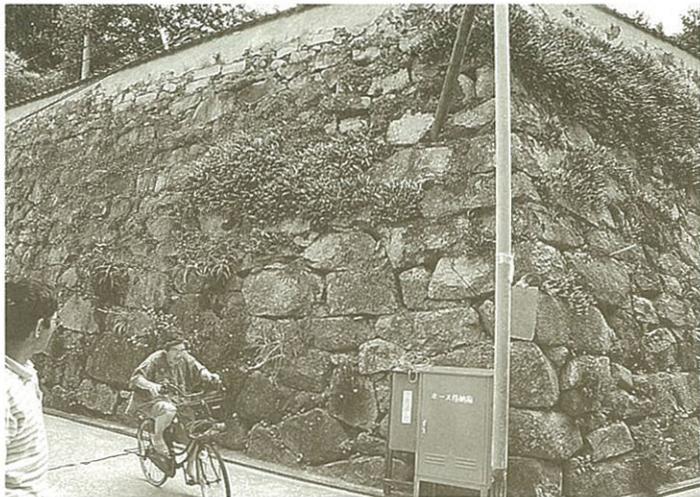
みたらい通信

1997・8 No.2

・もくじ・

御手洗ものがたり② 栗田栲堂	2
私の中の御手洗② メリハリのきいた四季・少年時代	3
あの日、あの頃。② 御手洗小学校百年記念	5
みたらい句集②	7
みたらいなんでも伝言板	9

御手洗を愛した江戸の俳人

栗田栲堂ちよ

戦国時代に作られたと伝えられる「乱れ築き」の満舟寺の石垣。この寺の境内に栗田栲堂の墓がある。



栲堂の門人、俳友達によって建立されたと言われる栗田栲堂の墓。(満舟寺)

栗田栲堂は寛延2年、今から248年前に松山に生まれた。

実家は豊前屋喜衛門という酒造業の富豪であったが、栗田家（麻屋与三左衛門）に入婿となりその跡を継いだ。明和8年、23才で大年奇役見習いを命ぜられて以来、享和2年54才で病氣により大年奇を退役するまで、本業と共に公職にも精励した。

栲堂は本業と公職とで多忙なるにもかかわらず、一方で俳諧を好み、当時京都で有名な加藤晝台（久村晝台）に師事し、松山の俳壇にあつて、蕉風の復興に力を注いだ。栲堂はその雅号を始めは腕室蘭芝といい、後に息陰栲堂と改め、老後御手洗に住み着くとミ鹽江の老漁と名乗った。

栲堂が御手洗に住み着いたのは享和の初め頃であった。その動機はこの島が風光明媚であることはもちろんだが、一つには妻が三原の出身であったこと、また松山にあつてはいくら大きな商売をし、大年奇として活躍していてもしよせんは武士の權威に屈せざるをえなかったが、御手洗という所は独特な町の成立からくる自由さがあつたことがあげられる。さらになんといつても、御手洗は一孤島であるにもかかわらず、四国九州から大阪にいたる航路に当たつており、瀬戸内海のなかで下関、上の関、室津とともに四大要港に数えられたほどの港町であつたため、全国

の情報が素早くしかも大量に入手できたからである。

栲堂は御手洗に移住すると森屋保蔵の世話により土地をもとめ家を建て、これを二疊庵と称した。

一疊は浮世の欲や二疊庵
その後はひたすら俳句三昧の生活を送り、自選句集二巻、句集・萍窓集、西木集、美たらし草紙・正統二冊、俳文俳句集・爪しるしなどを出版した。

文化11年8月21日没、66才。

栲堂と深い親交のあつた小林一茶は、栲堂の死を聞いたときのことをこう記している。

《八月二十二日身まかりぬと聞て筆落つるもしらず、おどろく折りからまたかたのごとくの書とどく、さながらあの世へさそわるるやうにそぞろうしろさむく、

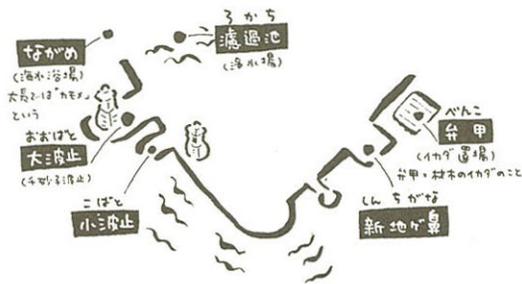
此次は我身の上か鳴く鳥
大事な人をなくしたれば此の末づるも心くだけてただちにしなのへ帰りぬ》



栗田栲堂の肖像画
愛媛県立図書館資料より

火をくれぬ火桶に春の眠りかな
初千や顔みせに寄る乳母車
竹はまだ植えしまわぬに月夜かな
嬉しいか雪降る夜のかいつぶり

メリハリのキいた四年生・少年時代



榎本 登始雄 (えのもと・としお)

昭和23年(1948)御手洗生まれ。49歳。
山口県徳山市在住。

住吉海岸通りに育った私は今思い出し出てみても、御手洗での15年間は、貧しくとも日本の四季を体感したメリハリのきいた最高の少年期でした。正月のカルタ取り、中日の「しんちがな」沖のとんど焼き、2月の節分の豆まき、3月1日私の誕生日に母のつくづくくれるカレールイス(カレールイスは年に何度かの大御馳走でした)。3日の雛祭り、また卒業式、4月の3日弁当と三ツ矢サイダー瓶入り(いまでも大好きです)をさげて「ろかち」での花見。「ろかち」の桜は絶品でした、桜におおわれた校舎での入学式、まさに、さくらさくらの4月でした。

5月の柏餅、6月、焼き玉エンジンの客船を借りきって(別船)、年の一度の消防団の広島旅行。あのころの福屋・天満屋は夢の世界で、前の日から眠れませんでした。7月夏休み「べんこ」で朝から夕方まで泳いでました。小学校4年の時初めて「おおぼと」「こぼと」をブイ無しで渡りまして、あの日の感動。24日ごろ、25日の夏祭り、8月のえべっさんの盆踊り、七夕もこの月と記憶してるのですが。25日ごろからの宿題の追込み、9月の休みあけの新学期、10月の運動会、

御手洗小中学校名物小学1年から中学3年までの全校リレー、すぐ後の住吉、恵比寿、天神三区対抗の町民運動会、盛り上がりましたねー。打ち上げの、ぜんざいがたのしみでした。

11月公民館での学芸会、また御手洗総出で青年団主催の大演芸会、野瀬のおばさんなどの役者もそろっていました。まさにライブの11月でした。12月親戚総出の餅つき、クリスマスは今のようメジャ―で有りませんでした。それにしてもこの四季感はどこへいったのでしょうか。もはや幼稚園にしか残っていない気もしますが。

御手洗を出てもう35年になります。私の持つアイデンティティーは島での15年間がすべてです。今でも盆と正月は、まじめに帰っています。一発当てて「私の御手洗」に恩返ししたいのですが世の中そんなに甘くありません。最後に私の夢ですが、御手洗の「ながめ」(ながめでないとだめなのです)にぜひ温泉を掘り当ててほしい。海と魚と温泉とみかん、みんな私の大好きなものばかりです。ちよつとよくばりかー！

あの日
あの頃

一九七三

(昭和47年)

御手洗小学校百年記念



思い出のアルバム大募集!!

家族や仲間との楽しいスナップ、行事の記念写真、町並み、島の風景、以前からある家財道具を撮った写真など、大切にしまっている懐かしい写真を私達に見せてください。

連絡先：〒734-03 広島県豊田郡豊町御手洗
「豊伝健を考える会」今崎 仙也
「思い出のアルバム」係



西欧諸国と伍すべく、政府は明治5年「学制」を發布。全国に学校を設置し、国民教育の基礎を築く計画を示した。御手洗小学校の歴史は古く、その「学制」施行の翌年、明治6年、満舟寺内に創設された「御手洗小学知新館」に始まる。明治14年に山岡の元の富座跡に移転し、18年には瀬戸市太郎氏より校庭の寄贈（現在地）があり、豊田郡でも有数の校舎が新築された。

江戸時代から瀬戸内有数の商業地としての素地があるせいか、昭和7年、尾道で開催された「第一回学童珠算競技大会」に高等科が参



昭和22年には御手洗幼稚園も併設され、年に一度幼稚園児と小学生合同の学芸会が御手洗会館で行われ、父兄からの喝采に沸いた。



現在のふるさと学園



昭和47年、御手洗小学校百年記念に集まった歴代の卒業生たち。

加し、優勝。以来、昭和11年頃まで近隣の商業学校主催の珠算大会で優勝するという輝かしい成績を収めている。生徒数は昭和30年代半ば頃が最も多く、当時は1クラスが約45名、全校で200名余りの時期もあった。その後、昭和47年豊小学校に移転、統合。現在は「ふるさと学園」と姿を変えて、島内外の人に利用されている。

御手洗小学校校歌

1 歴史の色も うるわしく
花の港と うたわれて
このよきものに 生いたらし
学びの庭に つどうすよ

2 一峰山の それのごと
高くみがげよ わが徳を
ひろがる海の 水のごと
深くおさめよ わがわざを

3 わが御手洗の ほこりなる
かの昔公を かがみとし
日頃むつみて 吾が友よ
至誠の道に いそしまん

ふるさと学園にある二宮金次郎の像。教育資料館など、御手洗小学校時代に造られたものもいくつか残っている。

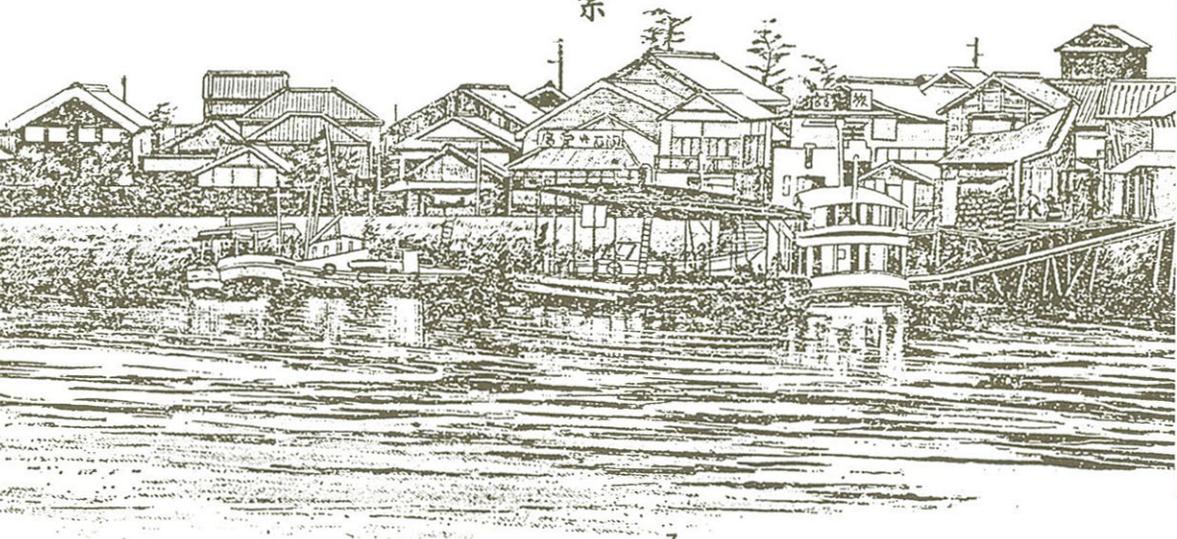




寺涼し欄間の天女笛を吹く 桃十

匂のれんに見透す醤油醸造舎 田宗

日覆舟一点を占め釣らしく 蚊居



蟹紅く殻脱ぎてをり梅雨晴れむ 泉児

光りつつ灘より帰る夏の蝶 圭吾

明け易き始発の船の一汽笛 愛子

みたらいの俳句 大暮集

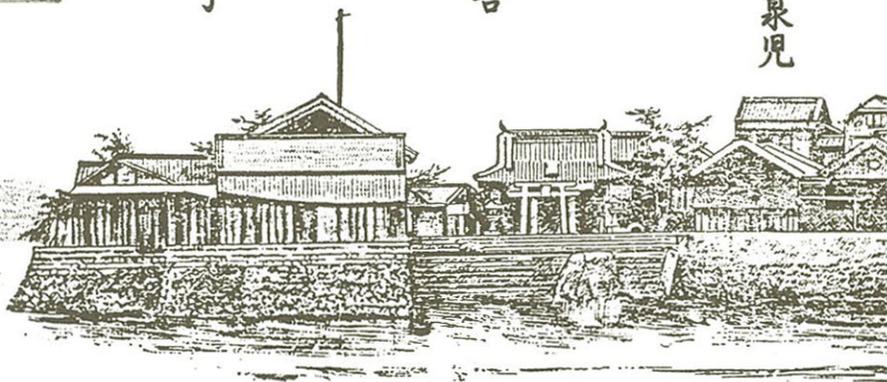
■「みたらいの句集」では、みなさまからの俳句を常時募集しています。テーマは自由ですので、たくさんの方の投稿お待ちしております。

【あて先】

〒734-003 広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝達を考える会」今崎 仙也

『みたらいの句集』係



このイラストは「重伝達を考える会」のメンバーである長浜氏が故郷を遠く離れ、東京で暮らしていた頃に手に入れたもの。とある食堂で偶然目にした漫画雑誌の一ページに、なんと故郷の風景が！嬉しくて懐かしくて…。こっそり破って持ち帰り、今も大切に保存しているそう。作者は「土佐の一本釣り」で有名な青柳裕介氏。上の写真は数十年前の雑誌に掲載されていた！カット。イラストと同アングルの風景。イラストの元になったと思われる。



弓の名手が各地から続々集約。

みかんの島で弓祭

豊町に古くから伝わる「弓道」の伝統を、多くの人知ってもらおうと始まったイベント。「みかんの島で弓祭」も今年で9回目となる。みんなに人気のアトラクション「扇的」は、防波堤から沖合50mに浮かぶ小船に掲げられた的を狙うというもの。見事的中した人には真鯛を進呈。今年の特者は誰かな。

とき/9月7日(日) 雨天決行
開会式10時

問い合わせ/
みかんの島で弓祭実行委員会
TEL/08466666・6126228
FAX/08466666・25664
長浜方



豊町の 手描きマップ ができた!

ユニークな建物や看板など、町内の何げない風景の中から集めたおもしろポイントを紹介した手描きマップ。片面は島全体を、裏面は大長、御手洗、沖友、久比の4地区を詳しく紹介。



豊町が「手書き絵図」発刊

ユニーク建物・看板

レトロな街
しぐ探検

（H9・6・4付
中国新聞・呉版）

問い合わせ/豊町産業課
☎08466-6-2131

みらいの

味自慢 ②

おちよろ舟



1個85円、
1箱(10個入り)1,050円、ほか。

御手洗のお土産物として、島の人達に重宝されている「おちよろ舟」。昭和47年から御手洗のユタカ製菓で作られています。当時、瀬戸内海汽船の観光ルートに御手洗が入っており、水中翼船が御手洗に寄港していましたが、御手洗にはお土産物がなく、人から勧められて「おちよろ舟」を作ることになったそうです。自家製のはんは北海道の小麦に砂糖、水飴、液糖で作られ、添加物は一切無し。おちよろ舟を模した皮に詰めます。昔ながらの懐かしい甘み特徴。お求めはユタカ製菓で。





重伝建からのお知らせ

新たに石碑が三基



野口雨情の石碑



重伝建のメンバーをはじめ
たくさんの人が集まった除幕式

この度、町内に二つの石碑が同時に完成し、6月30日に頼田家別荘で除幕式が行われました。石碑の一つは頼田幸徳氏の寄贈によるもので、海岸道路緑地帯に、野口雨情作詞、藤井清水作曲の「御手洗ふし」の一節。

来いというなら観音崎の
汐は荒くも 越してゆく
と刻まれています。

雨情は北原白秋、西条八十と並び、近代童謡の基礎を築いた人ですが、昭和初期には日本各地を巡歴し地方民謡の創作に力を注いでいます。その中に「御手洗ふし」もあるのです。雨情は「民謡は土の自然詩」とは言葉の音楽」と語っており、今回の歌碑には雨情の詩論がよく

おたより

※町起こしに頑張っている皆さんの姿が目につかぶよう、頭が下がります。

(中国新聞社・森岡)

※「みたらい通信」いいですね、先を越されてしまったという感じがします。われわれも頑張らねば! (大田市大森銀山町並みセンター)

福岡裕子



町田嘉章の石碑

表れています。

もう一つの石碑は、広島市の村上徳子さんの寄贈による町田嘉章の歌碑。場所は恵比須神社前です。

御手洗港は 居続けどころ
そして神輿の 据えどころ
とあります。

嘉章は東京放送局(現NHK)を退職後、民謡の現地採集や邦楽研究に専心した人。昭和37年から町田式録音機を携え、日本各地の音楽を採録して回る途中に御手洗を訪れ、この歌を詠みました。



※面白く読ませていただきまし
た。豊町に一度も行ったことが
ない私にとって、豊町がどうい
う所なのか紹介していただける
と、もっと面白いと思います。
(千葉市・宮下利江)

大

冒

集



「みたらい通信なんでも伝言板」では、皆様のお便りを募集しています。

- 御手洗で見つけたおもしろい物
 - 自分しか知らない隠れた名所
 - 御手洗の昔話・思い出話
 - または最新情報
 - 御手洗を訪れた感想・希望
- その他、いろいろ、載せたいこと、みたらい通信の感想など、ごしどしお寄せください。

本誌でお便りや情報を掲載させて頂いた方には、もれなく記念品を差し上げます。

お便りお待ちしております。

宛先/〒734-003

広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」今崎 仙也

「みたらい通信なんでも伝言板」係

●編集室より

「みたらい通信」創刊号はおかげさまで非常によい評判をいただきました。いろいろな反応の中で千葉市の宮下利江さんの評価には考えさせられてしまいました。そこで、今号以後は御手洗の歴史・文化的位置を縦軸に、地理的・空間的位置を横軸に編集して、御手洗の総合的かつ現代的な位置付けをするべく心がけていきたいと思っています。ただ大変な資金難にぶち当たっていますので、今後の展開は予断を許しません。継続のため資金協力をお願いします。

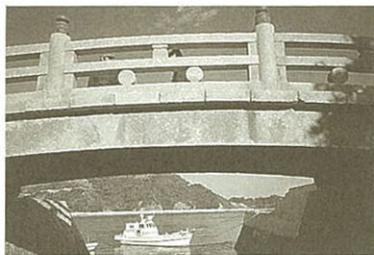
(長濱)

見たい! 知りたい! 伝えたい!



MITARAI

since 1666



- 寛文6年(1666) 町屋敷割りを藩より許され、人家が建ちはじめる
- 正徳3年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
- 宝暦9年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)
- 文化3年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した(3月1~3日)
- 5年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代 栄屋)
- 文政9年(1826) シーボルトが寄港する
- 11年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)
- 11~13年 住吉神社造営(大坂 酒池神右衛門寄進)
- (1828~30) ※千砂子波止の築造以後、住吉町の埋立てが進んだ
- 嘉永6年(1853) 吉田松蔭が長崎行き途中に立ち寄る
- 元治1年(1864) 三条美美ら五卿が多田助右衛門宅(竹原屋)に寄寓する(7月22~24日)
- 明治12年(1879) 御手洗町が大長村より独立
- 昭和31年(1956) 1町2村合併して豊町となる
- 平成6年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区となる

御手洗への交通のご案内

- 大島から大長まで…高速艇で約1時間30分
- 呉から大長まで…高速艇で約1時間
- 仁方から大長まで…高速艇で約40分
- 竹原から大長まで…高速艇で約40分
- 三原から大長まで…高速艇で約60分
- 今治から大長まで…高速艇で約30分
- ◎大長から御手洗まで…徒歩で約15分

広島県豊田郡豊町御手洗

いろいろな人に
読んで欲しい!

「みたらい通信」を友人、知人または豊町出身者に配りたい!等て本誌が余分に必要な方は左記良付住所の「重伝建を考える会」今崎までお問い合わせください。

この情報誌は
再生紙を使用
しています。